

宇宙飛行した植物による地域活性化イベントについて

長谷川洋一（一般財団法人ワンアース）、加藤修（株式会社ヘッズ東京本社）
町田誠（一般財団法人公園財団）、○加藤茂男（株式会社ヘッズ東京本社）
守屋慎一郎（合同会社企画室）

キーワード： 宇宙植物 全国都市緑化フェアせんだい 2023 東北復興宇宙ミッション

【1】目的

東日本大震災復興支援に対する感謝を宇宙から世界に発信する「東北復興宇宙ミッション」が、被災地 51 の自治体と、子どもを含む多くの市民の参加を得て実施された（JACE イベントアワード優秀賞受賞）。この一環で多様な植物の種が宇宙飛行し、各地で新しい名産物として育まれつつある。これら宇宙植物の活用による「差別化された」地域振興イベント（全国都市緑化フェア出展等）について、令和 3 年度イベント学会研究助成「宇宙を旅した植物群を活用した地域づくりイベントの研究・企画提案」の成果も含めて報告する。

【2】内容

東日本大震災被災地等（約 50 自治体）の復興 10 年の歩みを物語る写真データを、長さ 7 メートルの絹幕に印刷して NASA のロケットで打上げ、国際宇宙ステーション（ISS）日本実験棟『きぼう』船内に展開した。JAXA 野口聰一宇宙飛行士がその前に立ち（浮き）、被災地から集めた 550 通に及ぶ世界への感謝のメッセージを要約して読み上げた。この動画を 2021 年 3 月 11 日に公開したところ、新聞各紙や NHK おはようニッポン等ニュースで取り上げられるなど、大きな反響があった。並行して、各地から記念品を預かり宇宙飛行させた。各地とも、ポスト 10 年の復興に活かそうと、ご当地自慢の花や農作物の種等を選んだケースが多く、福島県の「東北復興宇宙酒」や川俣町の宇宙蕎麦「高原の宇宙（そら）」などを筆頭に、実質的な活用およびアピールするイベントを行っている。より広く大きくアピールするため（特に風評被害に苦しむ福島は明るい上向きのイメージ発信が重要）、単一自治体のみならず、広域合同でのイベントが希求されると考え、本取組では、次のアプローチを行った。

1) 宇宙祭り

2022 年 1 月 13 日、宮城県七ヶ浜町・国際村にて『復興宇宙祭り』を開催した。宇宙ミッションの実行委員長である山崎直子宇宙飛行士も駆けつけたこのイベントでは、小学生を含む多くの市民から宇宙フライト記念品の活用方法についての具体的で刺激的な発表があり、さらに、5 自治体の首長らを交えたディスカッションでは地域連携による復興と未来



創造の議論が大いに盛り上がった。



左：復興宇宙祭りの様子（2022.1/13 宮城県七ヶ浜町）



右上：多賀城市的宇宙古代米収穫（2022.10/18）
右下：塩竈市の宇宙白菜植栽風景（2022.9/10）



2) 全国都市緑化フェア等への合同出展検討

各地での新たな宇宙植物等による地域名産創成の動きを統合し、2023年の仙台市における全国都市緑化フェアへの出展を目指した検討を行った（イベント学会2021年度助成「宇宙を旅した植物群を活用した地域づくりイベントの研究・企画提案」）。2023の会場である仙台市周辺地域を中心に、出展する内容等を想定しつつ、各自治体との議論・調整を継続している。有望なところとしては、七ヶ浜町の「宇宙ルバーブ」（ハーブの一種）、塩竈市および仙台市の「宇宙浦戸白菜」、多賀城市的「宇宙古代米」、そして福島県の「東北復興宇宙酒」などが挙げられる。

【3】今後の広がり

1) 復興宇宙サミット

東北復興宇宙ミッションで繋がった全国各地の仲間が一堂に会し、復興の先にある未来社会を共創するための広域交流祭典として設計中。歌や演舞、子どもたちの研究発表など交え、東日本大震災の記憶と教訓を31世紀まで伝えるための市民文化を育む。2023年8月に福島県檜葉町で開催し、以後、各地持ち回りで毎年開催する構想。多くの小中高生を迎える、次世代のパワーあふれる真夏の祭典にしていきたい。



2) 大規模イベントへの出展

2023年の仙台市における全国都市緑化フェアに引き続き、Expo2025大阪・関西万博、そして2027年の横浜の国際園芸博などへのステップアップした出展を目指し、復興と宇宙ミッションのレガシーを発展的に広げていきたい。